

アースデイ神戸 2016 に 出店しました

今年も5月4日(水祝)、5日(木祝)みなとの森公園(震災復興記念公園)でネパール商品や紅茶の販売、「世界のごちそう博物館」のレトルトを販売しました。熊本・大分災害支援募金箱も設置しました。集まった浄財は熊本・大分災害支援に使われました。ありがとうございました。



AMDA 兵庫写真展 継続中！！

兵庫医療大学(ポートアイランド)の地域連携室でAMDA兵庫の活動を写真と共に紹介しています。地域連携室の閉館時間は、平日の9:30～16:00。どなたでもお越しいただけます。多数のご来場をお待ちしております。



富士通春まつりに 出店しました

4月10日(日)、富士通明石工場でAMDA兵庫の広報活動のためネパール紅茶やネパール製品を販売しました。

桜満開の中、会場は多くの人で賑わいました。



AMDA兵庫だより



2016.4～2017.3 Vol.7

平成28年熊本地震 被災地益城町での緊急医療支援 副理事長 鈴記好博

平成28年4月14日最大震度7の地震が熊本を襲いました。AMDA本部はその翌日に益城町に入ったので、先陣隊は4月16日深夜の本震震度7を益城町で経験しています。本部からの第4次隊として熊本入り要請の連絡が入り、私は4月20日から1週間、益城町広安小学校避難所に医師として活動させていただきました。

広安小学校には、校舎内に300人、運動場に500人(車中泊)の方が避難されており、電気は復旧されていましたが、ガス、水道の使用ができない状態が続いておりました。発災からすでに1週間のこの時期の医療支援の状況としては、超緊急的災害救急医療支援のDMATが現場から離れ、全国の医師会が構成するJMATに引き継がれている頃で、多くの医療支援団体の活動も益城町医療本部で統括一本化された時期であります。AMDAの活動場所も、この本部から任される形で広安小の避難所を引き続き守っていくということになっていました。

すでに24時間体制で救護所運営をやっていた広安小学校での活動でしたが、発災2週間目は、1日40～50名程度の受診者で、救急外傷の患者さまは全くいなくなっており、呼吸器感染症、避難が長期化していることでの腰痛、肩こりなどの症状、不安、不眠などの震災後ストレス性疾患の患者さまが増加していました。インフルエンザBの罹患者が一名でしたが、隔離することで蔓延は防止でき、ノロウイルスなどによる感染性胃腸炎の発生も見ることがありませんでした。また、JMATの方たちと協力しての避難所内回診を行い、エコノミークラス症候群予防のための声かけ、リスク者への弾性ストッキング配布を行いました。

救護所活動に加え、このフェーズで避難所に入った我々のチームは、「弱者にやさしい避難所作り」と「感染予防対策」を進めていきました。「弱者にやさしい避難所作り」として、自衛隊設置のポータブルトイレ(800人に17基)の一部を女性専用とし、さらにこのポータブルトイレ(和式)では用が足せない足の不自由な方、子供さんたちが使

用できる簡易型洋式トイレ「タッチポン」の導入、足腰の弱い高齢者が寝た状態から起き上がりやすくして体の弱りを予防するための簡易ベッド(段ボールベッドなど)の導入、少しずつ再開し始めた街の開業医さんの情報を避難者の方々に向けて発信、授乳室やおむつ交換室の設置などを行いました。

「感染予防対策」としては、トイレ清掃指導、トイレ、避難室前への消毒薬設置、ポスター、声かけなどによる感染予防啓もう活動を行い、ノロウイルス感染アウトブレイク時のマニュアル作成を手がけました。

また、夜間の避難所見回り、避難所内土足禁止の開始、赤ちゃんの沐浴や避難者の方々の足湯の開始、総合グラウンドにできた避難テント村の救護室設置の準備などもやらせていただきました。

正直、行政の地震後対策が後手後手となっている感は否めず、明らかに「予想してなかった地震」への「準備不足」が見取れる状況でありました。

今後来ると予想される東海、南海トラフ大地震は、この熊本地震および阪神淡路大震災とは異なり、津波の被害が中心となる東日本大震災型の災害であると思われます。

これまでの教訓を生かすことができるように個人個人が自分を守るために準備することはもちろん、考えられる状況に対し行政、自衛隊、NPOが協力して具体的に準備をしていくことが重要で、今AMDA本部はそういう形の準備を行っているところであり、その会議にはAMDA兵庫の一人として私も参加させていただきお手伝いさせていただいております。



＝ AMDA 兵庫活動記録【平成28年4月1日～平成29年3月31日】＝

- 平成28年4月1日～平成29年3月31日 兵庫県支部写真展開催 一兵庫医療大学地域連携室に於いて(桂木、藤本)
- 平成28年4月10日 富士通春祭り参加 明石市(江口、中山、桶川、中田、岩村、原田、河田、藤本)
- 平成28年4月20日～25日 熊本地震支援活動 岡山本部からの要請 熊本県益城町(鈴記)
- 平成28年4月23日 熊本地震支援活動 岡山アムダ本部での支援活動(原田、河田)
- 平成28年4月26日 大阪ガス寄付金贈呈式・ネパールの現状報告(江口)
- 平成28年5月4日～5日 アースデイ神戸参加(桶川、原田、河田、岩村、神徳、早瀬、藤本、酒井)
- 平成28年5月10日 ネパール地震復興支援チームひょうご設立及び被災地調査・支援報告会
防災未来センター(神戸)にて(江口、桂木、早瀬、河田、藤本)
- 平成28年5月17日 南海トラフ地震支援活動打ち合わせ(江口)
- 平成28年5月27日 神戸女子大学看護学部訪問 AMDA兵庫広報活動(原田、河田)
- 平成28年5月29日 南海地震災害医療提携 岡山アムダ本部(江口)
- 熊本地震課題検討会/南海地震支援活動運営委員会 岡山アムダ本部(江口、鈴記)
- 東日本母子支援活動 宮城県雄勝市(原田、河田、岩村、藤本、菅原)
- 兵庫県災害運営協議会(江口)
- 阿南の人脈を作る会 徳島県阿南市(江口、鈴記)
- 南海トラフ地震支援活動会議 徳島県阿南市(江口、鈴記)
- 桑浜地区(モリウミアス)大運動会参加 宮城県雄勝市(小倉、相羽)
- 阿南の人脈を作る会 徳島県阿南市(江口)
- 南海トラフ地震に備えて現地視察 徳島県阿南市
(江口、鈴記、中山、桶川、小林、原田、河田、相羽、中田)
- ワン・ワールド参加(原田、河田、藤本)
- 「ひょうご・こうべ・ワールドミーツ for YOUTH」参加(藤本、河田)
- 平成29年2月5日
- 平成29年2月11日

＝ご寄付(敬称略)【平成28年4月1日～平成29年3月31日】＝

大阪ガスともしびクラブ、神戸市薬剤師会、藍の都脳神経外科病院、島田義一、井上京子、土井真理子、岸路悦子

◇会員の募集

活動にご賛同いただける方は、ご協力をお願いいたします。

- 年会費
- 正会員 : 年会費 10,000円
- 賛助会員 : 年会費 1口3,000円(1口以上)
- 学生会員 : 年会費 3,000円

◇AMDA兵庫の活動に参加して下さい

AMDA兵庫では前述のプロジェクトに精力的に取り組んでいます。現在、これらの活動に賛同して下さる会員を募っております。

月に一度の定例会を開いております。AMDA兵庫にご興味のある方は、ぜひ一度ご参加ください。

AMDA 兵庫
〒673-0896
明石市日富美町5-16 3階にじ作業所内
E-mail: amdahyogo@yahoo.co.jp

定例会 毎月第一土曜日
毎日新聞社神戸支局 3階会議室にて
HP: http://amda-hyogo.com
発効日: 2017年5月



(前列左 鈴記氏)

東日本支援



平成 28 年度東日本支援事業 雄勝海鮮まつり参加 河田 里奈

日時：2016年7月2日（土）～3日（日）
場所：宮城県石巻市雄勝（おがつ店（たな）こ屋街特設会場）

昨年の11月の東北支援事業から、約8か月ぶりの雄勝訪問となった。高台移転のための盛り土が各所に高く積み上がる風景は昨年と変わらないが、高台に商店街の建物の土台や鉄の骨組みが建てられ、各所で公営住宅の建設が進んでおり、震災5年目が経過した雄勝は復興に向け着実に前進をしている。

今回は、移転オープンしたおがつ店こ屋街での、初めてのお祭りとなる海鮮まつりのお手伝いのため訪問した。新しい道路建設のため、6月に移転したおがつ店こ屋街だが、公営住宅や消防や役所などの主要機関と共に高台へまた集団移転をする予定となっている。

この海鮮まつりは、もともとはウニ祭りとして漁業協同組合が主催となってイベントを実施していた。しかし、震災で津波の大きな被害を受けた雄勝町では、人口流出で住民が約4300人から約1000人となり、漁業の被害も大きく漁業協同組合の力も弱まったため、石巻かほく商工会が主催となって、漁業協同組合や石巻市復興課及び支所職員、観光協会、復興応援隊、東工大、東北学院大学災害ボランティアステーションの大学生ボランティア等も協力し、今回のイベントを実施する運びとなった。

イベントでは、ウニの販売や海産物販売や地元雄勝スターズや避難所から炊き出し支援をした新潟佐渡の屋台等、マッサージやネイル、喫茶店、雄勝町伊達の黒船太鼓保存会の和太鼓披露やステージでのマジックや雄勝に縁のある歌手による歌の披露が企画された。伊達の黒船太鼓保存会では、震災で練習場が被災し太鼓道具がすべて流されてしまったが、全国からの支援を受け、現在はお礼参りの演奏披露で全国を巡回している。想いを込められた力強い演奏が雄勝に響き渡った。

AMDA兵庫では、震災後仮設住宅集会所等でイベントを企画実施し、訪問支援活動を続けてきた。震災5年を迎え、新たな活動形態の検討として地域イベントに参加する形での支援をする試みを行った。イベントのお手伝いの内容は、前日のテント設営やステージ設営準備、当日のステージ音



響設営とカラオケ設置、会場準備、ウニ販売の来場者案内と整理、ウニの梱包、ステージイベントのカラオケ希望者の案内と実施、片付けを行った。

当日の会場設営のため朝6時に会場へ向かったが、すでに来場者がおりウニを買うための行列ができていた。限定200箱（朝獲れウニ10個入り）のため、整理券配布が8時、ウニの販売が10時からであるが、昨年までのウニ祭りに参加していたりピーターや口コミにより知った人々によって朝早くからぞくぞくと人の行列ができていった。行列の整理手伝いをしながら、来場者から聞き取りをすると、松島や石巻市内、仙台に住んでいるが地元が雄勝など、遠方からの来場者が多かった。朝早くから並んでおり、保冷剤が梱包されているが生ものなのでウニを買ったらすぐ帰る方もいた。

カラオケの受付は10時頃より行ったが、始まる11時半には帰宅していると話す方も多くおり、受付をするも開始時間にはすでに帰宅している方も数名いらっしゃった。10組の枠のうち、来場者6名、ボランティアでの来場者9名（大



学生グループ2組)が参加してくれた。カラオケステージには、イベントのため来たプロの司会者も入り、大変盛り上がった。

歌うことが好きな方は多かったが、大きなステージでは恥ずかしいという遠慮の声もあり、受付をするまでがなかなか時間が必要だった。今回のイベントでは、多くの来場者が訪れ、閉会の挨拶では、観光による復興や、地元を離れた方が帰りやすい雄勝を作りたいという運営側のイベントへの想いを語ってくださった。最後に運営全員で三三七拍子を行い、おがつ店こ屋街での初めてのイベントは成功し無事終えることができた。

お祭りに参加予定であった各地区の区長さんたちは、ウニの運搬を担っているなど主催側であるため話をする時間が取れなかった。イベントでは、神輿担ぎなどの力仕事や、運動会の競技参加など若手の力が不足している様子であった。また、イベント前日に立浜仮設に行き、復興状況を区長さんにお聞きした。公営住宅が4軒建ったが集会所を作るのが遅れており、秋頃には半数の世帯が、12月末にはすべての世帯が仮設住宅から移れる見込みであるとのことだった。たまたま通りがかった立浜の副区長さんにもお話を伺うと、震災後に息子さんが大変な状況の中で漁師の仕事を継いで孫たちと帰郷してくれたこと、子どもが少ないので子どもの声が聞こえることが嬉しいこと、東北の人は辛抱強いこと、集会場等で住民が集まり話をすることで逆境の中をみんなで頑張ると心境をお話下さった。震災からも

う5年、まだ5年。仮設住宅から公営住宅への移転の目途が立ち、これからようやく復興していけるところだとの声が聞かれた。

これまでの東北支援事業で訪問してきた地域では、2016年内が、仮設住宅から公営住宅への移行期にあたる。集会所が建設中の地域もあり、これまでの仮設集会所での訪問活動を見直す時期にある。被災地全体では、活動終了するボランティア団体もあれば、復興状況により活動内容を変える団体、法人として形態を変え支援を続ける団体もある。雄勝町では、震災により人口流出や過疎化が進んだため、各地域での若手のマンパワーが不足している現状から、運動会等の地域行事に参加するなどの支援方法や雄勝町で購入した東北支援グッズの販売を行うなどの方法も考えられる。現地での状況を鑑み、今後の支援方法を検討する必要がある。



新潟佐渡名物の海老汁



黒船太鼓保存会



ご支援への感謝を込めて

AMDA 兵庫理事長 江口貴博

いつもAMDA兵庫の活動にご理解を頂き、そしてAMDAネパール子ども病院（ネパール名、シッダールタ母子専門病院）をご支援頂きましてありがとうございます。私たちAMDA兵庫は1998年の設立以来、阪神淡路大震災をきっかけにできたネパール子ども病院への支援を中心に活動して参りました。そして、正式なAMDAの県支部を経て、2014年4月に本部から独立、同時に子ども病院の支援全般につきまして、AMDA兵庫が主体となって支援を継続しております。皆様の温かいご支援によりまして、ネパール子ども病院では開院以来75万人を超える母子が病院を訪れ、5万人もの赤ちゃんが誕生しました。その間、ネパールの乳幼児死亡率は3分の1以下となり、地域に無くてはならない病院として機能しています。2013年には3つ目の病棟である周産期病棟が完成し、乳幼児の死亡率低下のみならず、新生児と妊産婦の死亡率低下にも取り組んでいます。また2014年1月17日にはAMDA兵庫が事業主体となって患者家族棟をオープンし、患者家族の取り巻く環境整備にも支援を広がっています。2015年4月に発生したネパール大地震においても医師と看護師を派遣し、ネパール子ども病院のスタッフとともに、震源地に近い山岳地帯ゴルカ郡で活動を行いました。直近では2017年3月現地医療スタッフから要望のあった16種類の医療機器を選定し支援する方向で準備を進めております。そして、私たちの活動のもう一つの大きな柱は、災害医療支援活動です。阪神淡路大震災時の災害医療の経験から、AMDAの理念である「困った時はお互いさま」とともに「阪神淡路大震災のお礼をしよう」というキャッチフレーズの元、東日本大震災や熊本地震において、医師、看護師、助産師、薬剤師、検査技師などを派遣してきました。また、近い将来起こるとされる南海地震において、AMDA本部の進める徳島県、高知県との災害医療支援プラットフォームに参加、徳島県阿南市を担当することとなり、阿南市役所や医師会、歯科医師会、航空医療研究所などとの連携を進めています。

私たちは、これからも継続してネパールの医療や災害医療を中心に活動を行って参ります。引き続きご支援下さいますよう、どうぞよろしくお願い致します。